

番号	8		事業名	道路改築		市町村名	飯田市		路河川名	(主) 飯田富山佐久間線	箇所名(ふりがな)	米峰(よなみね)			
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>主要地方道飯田富山佐久間線は、飯田市を起点に泰阜村、阿南町、天龍村、愛知県豊根村を経由して静岡県佐久間町に至る主要な幹線道路である。また、震災対策緊急輸送路(第二次)にも指定されている。</p> <p>当区間「米峰工区」は、区間の飯田市街地側及び泰阜側は概ね改良済みであるのに対し、本区間については幅員4m~5mの急勾配・急カーブの連続で難所となっていた。また、東海地震の発生に備え緊急輸送路の整備が急務であったため、本区間を改良し交通の安全を確保する必要があった。地元からの要望も強く、通過交通の円滑化及び沿線住民の安全確保のため、平成19年度より米峰工区(延長L=354m)の建設に着手した。</p>													事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価
	<p>○中央自動車道や飯田市街地へのアクセス性向上により、泰阜村から飯田市へ通勤が可能となるなど生活環境が大幅に改善している。</p> <p>○橋梁形式にPCTラーメン箱桁橋を採用したことで橋脚が1基になり、自然環境、地形の改変を最小限としている。また、景観的にも配慮されている。</p>													B	
事業目的	<p>本路線は、飯田市と泰阜村・阿南町・天龍村をつなぐ幹線道路であり重要な生活道路であるとともに、震災対策緊急輸送路(第二次)にも指定されている。しかし、幅員が狭く急カーブが連続し、交通に大きな支障となっていた。</p> <p>当区間の現道については、幅員4m~5mの急勾配・急カーブの連続で難所となっていた。また、東海地震の発生に備え緊急輸送路の整備は急務であったため、橋梁の整備により道路線形を良くし、大型車のすれ違い可能な幅員を確保することにより、交通の安全確保と移動時間の短縮を目的としている。</p>													施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価
	<p>○道路パトロールを毎週1回行っており、良好な交通環境の確保に努めている。</p>													B	
事業概要	当初工期	H19~H22	費用対効果(当初時)	1.6	事業費(千円)	財源内訳(千円)									
	最終工期	H19~H24	費用対効果(評価時)	1.6	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源						
	当初計画内容(主な工種)	道路改築工事 L= 320m W= 6.0(8.0)m (橋梁工 L= 172m)			800,000	440,000				360,000	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)				評価
	最終事業実績(主な工種)	道路改築工事 L= 354m W= 6.0(8.0)m (橋梁工 L= 150.5m)			807,256	443,000				364,256	<p>○旧道は大型バスが通行出来ない道路で、泰阜村内の中学校まで直接バスが行けず、修学旅行へ行くために、村外の集合場所まで車で片道30分の送迎が必要だった。道路改良により修学旅行のバスが直接中学校まで行けるようになった。(泰阜中学校関係者)</p> <p>○天竜ICから泰阜中学校まで約15分の時間短縮となった。(泰阜中学校関係者)</p> <p>○狭い旧道を通らなくなり、交通の安全が図れるようになった。(泰阜村温田地区区長)</p>				A
事業期間の延長、短縮理由と分析	<p>○橋梁形式の見直し及び近接工区から発生する多量の残土の再利用について、検討に時間を要したため、事業期間が延長された。</p>													改善措置の必要性	○特になし
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	<p>○橋梁形式の見直し及び近接工区から発生する多量の残土の再利用について、検討に時間を要したため、費用が増となった。</p>													今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	<p>○橋梁下部工が現道に影響する設計であったため、極力、現道交通を確保しながら施工するために、仮設として現道拡幅等の対策を行ったが、一時的には全面通行止が必要となった。このため、地元自治体及び地域住民の協力が不可欠となったことから、実施にあたっては、関係市町村、地元区、関係機関への事前周知を入念に行い、大きなトラブルなく工事が完了された。</p> <p>工事に伴う交通規制にあたっては、事前の広報が重要である。</p> <p>○施設が良好に維持されている。今後も施設点検等により適切に維持管理を行う。</p> <p>○事業完了時のPR活動に加え、事業期間中のPR活動を行うことで、公共事業の必要性を広く継続的にアピールすることが必要である。</p>
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)										評価				
	直接的効果(定量的・定性的)	<p>○大型バスの通行が可能となった。</p> <p>(泰阜村内の中学校まで大型バスが直接行けない状況であったが、天竜ICから中学校まで約15分の時間短縮。)</p> <p>○飯田市立病院へのアクセス性向上とともに、飯田市内の病院への通院、搬送が可能となるなど医療体制が改善された。</p> <p>○交通量は875台/12h(H22)から、1,533台/12h(H27)に増加。(H22、H27センサス 泰阜村境)</p> <p>○当路線は震災対策緊急輸送路(二次)に指定されており、改築により落石や倒木等の危険が回避され、震災対策が強化された。</p>										B			
		間接的効果(定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	<p>○南信州広域連合で建設した、飯田市 稲葉クリーンセンターへの運搬路として活用されている。</p> <p>○天竜ICから、天竜奥三河国定公園を中心として、阿南町、泰阜村、天龍村の各観光地へのアクセス向上にも寄与している。</p>										<p>○道路整備による狭隘・線形不良箇所の解消により、安全な交通が確保され移動時間が短縮されたことから、事業の目的を達成している。</p>	<p>県の自己評価</p> <p>A</p>	
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。														